

バンコクの風

ลมจากกรุงเทพฯ

日本学術振興会バンコク研究連絡センター 活動報告(2013 年 4 月～6 月)



【インドネシア・ガジャマダ大学での JSPS 事業説明会 (2013.6.19 実施)】

センター長挨拶

JSPS バンコク研究連絡センターの活動報告「バンコクの風」(2013 年 4-6 月分)の刊行にあたり、6 月末日をもってバンコクセンター長としての最初の一年間の任期を無事終えることができましたこと、関係の皆様のご協力とご支援の賜物です、この場を借りてお礼申し上げます。

この四半期ごとの活動報告を纏めてくれている山田大輔副センター長と話しをしながら、この一年間を振り返ってみて気が付くことは、当センターを訪問される日本の大学関係者が大いに増えたことがあげられます。大学の世界展開力強化事業、グローバル人材養成事業など東南アジアの大学との連携を進める日本の諸大学の動きと相まって、JSPS バンコクセンターの認知度も高まってきたと言えるのかも知れません。ちなみにこの一年間で交換した名刺は 1,000 枚になろうとしています。前任の九州大学での 9 年間の数と同じです。

今期の事業の中では、インドネシアでは初めての JSPS 紹介セミナーをガジャマダ大学で実施し、好評でした。インドネシアは、JSPS フェロー(論博も含めて)の数もアジア諸国の中ではかなり多い国です。今後、それらの研究者との連絡を密にしながら、ネットワークの構築に努めていきたいと思っています。

2013 年 7 月 吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長 山下邦明

主な活動と目次

4 月

1 日	The 7th Srinakharinwirot Academic Conference on “East-West Higher Education Experiences” に参加	P. 3
4 日	2013 年度第一回タイ国学術会議(NRCT) 訪問	P. 3
17 日	大阪大学関バンコクセンター長、藤山教授の来訪	P. 3
19 日	JSPS フィリピン同窓会(JAAP) 設立準備総会に参加	P. 4
22 日	SUN/SixERS・AUN (ASEAN University Network) パートナーシップ協定締結式に出席	P. 4
22 日	第 11 回 JSPS タイ同窓会理事会の開催	P. 5
23 日	関西大学国際部山本課長の来訪	P. 5
26 日	国際大学(IUJ)の来訪	P. 5
30 日	タマサート大学東アジア研究所を訪問	P. 6

5 月

8 日	The Second Thailand National Research Universities Summit (NRU SUMMIT II) を視察	P. 6
15 日	豊橋技術科学大学角田副学長の来訪	P. 6
20 日	2013 年度第二回タイ国学術会議(NRCT) 訪問	P. 7
21 日	京都大学バンコク連絡事務所片岡准教授の来訪	P. 7
21 日	東京大学生産技術研究所竹内渉准教授(前センター長)の来訪	P. 7
21 日	AUN/SEED-Net 事務局への訪問	P. 8
27 日	明治大学中田国際連携部長の来訪	P. 8
21 日	中央大学第一回グローバル中央シンポジウムに参加	P. 8
30 日	東京農工大学松永学長の来訪	P. 9
31 日	AC21 国際スクーリングに参加	P. 9

6 月

6 日	PIM で JSPS 事業説明会を実施	P. 10
7 日	広島大学国際センター平野主査の来訪	P. 10
13 日	JST シンガポール事務所 矢野シニアプログラムコーディネーターの来訪	P. 10
18 日	大分大学内田助教、九州大学大杉准教授の来訪	P. 11
20 日	ガジャマダ大学で JSPS 説明会を実施	P. 11
25 日	泰日工業大学での留学説明会に参加	P. 12
27 日	バングラデシュ首相顧問への表敬訪問	P. 12

コラム#1	ダイスケさんのダイ好きアジア	P. 13
コラム#2	ブアさんのタイご案内	P. 14

■The 7th Srinakharinwirot Academic Conference on “East-West Higher Education Experiences”
に参加（4月1日）<http://jsps-th.org/?p=4662>



本シンポジウムはシーナカリンウィロート大学が主催し、テーマを「East-West Higher Education Experiences」として日本から明治大学、その他 Juniata College（米国）、釜山外国語大学（韓国）、広西民族大学（中国）など、世界各地の高等教育機関から学長や学部長などが招へいされ、講演が行われました。

本会議は、様々な分野の研究者や専門家に対して、国際的な環境における優れた実践方法や問題解決方法を通じて知識のギャップを埋めること、研究活動の推進、能力強化に関する意見交換の場を提供しました。

二日目の基調講演では、明治大学政治経済学部長の大六野耕作教授が、ASEAN との連携、また進出を模索する日本、中国、韓国、アメリカ、EU、オーストラリアなどの国々の思惑と ASEAN はどう対応すべきか、そして CLMV 諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）とどう向き合うか、さらには、まもなく終わる国連ミレニアム開発目標（MDG）への対応はといった内容で質疑応答を含めて約2時間英語での講演を実施し、会場内は熱気に包まれました。

■2013 年度第一回タイ国学術会議（NRCT）訪問（4月4日）

<http://jsps-th.org/?p=4677>

2013 年度第 1 回目の NRCT への訪問となった今回の会合では、8 月に NRCT が主催し、JSPS が参加する Thailand Research Expo のテーマ決定、日程調整、また JSPS タイ同窓会の Research EXPO への参加について当センターより打診しました。結果、8 月 23 日に JAAT のセミナーを、JSPS-NRCT セミナーは 8 月 25 日に実施することになりました。また、JSPS のガイダンスセッションを 6 月に実施する際、NRCT からも参加いただき、事業説明をしてもらうことになりました。



■大阪大学関バンコクセンター長、藤山教授の来訪（4月17日）

<http://jsps-th.org/?p=4686>



【左から大阪大学藤山教授、関センター長、センター長】

大阪大学バンコク教育研究センターの関センター長及び大阪大学生物工学国際交流センター藤山教授が当オフィスを来訪されました。

関センター長は同じビル内にオフィスを構えていることもあり、よく来所されては様々な意見交換を実施しています。藤山教授は昨年一度来所され、その際は名刺交換のみでしたが、今回の訪問は、JSPS 大学の世界展開力強化事業申請について当センターに相談があり、センター長、副センター長で意見交換を行いました。

大学の世界展開力強化事業で訪問する大学が増加してきましたが、当センターとして、今後も連携を推進していく予定です。

■JSPS フィリピン同窓会(JAAP)設立準備総会に参加 (4月19日)

<http://jsps-th.org/?p=4704>

マニラ市内にあるデ・ラサール大学(De La Salle University Manila)にフィリピン同窓会(JAAP: JSPS Alumni Association of the Philippines, Inc.)設立準備総会に参加し、フィリピン同窓会公認のための打ち合わせを実施しました。

JAAP 設立準備総会では、JAAP の設立にかかる説明を同窓会会長の Prudente 教授から行い、その後同窓会理事に任命されたメンバーは、同窓会員としての宣誓を行いました。JAAP については、既にフィリピン政府に公認団体としての申請を行い、許可が下りていますが、JSPS 本部からのいくつかの提案について、意見交換が行われました。今後、JSPS による同窓会活動の公認後、速やかに設立記念総会及びシンポジウムを実施したいとの意向が有り、当センターとしてもサポートしています。総会及びシンポジウムは 2013 年 11 月 22 日に実施予定となっています。



同窓会設立準備総会終了後、在フィリピン日本大使館竹内清日本広報文化センター長及び加藤伸一郎調査役を訪問しました。

今回は、前回不在だった竹内センター長にも出席いただき、フィリピンにおける同窓会活動について今後のスケジュールについて説明を行いました。在フィリピン日本大使館としても、今後のフィリピンにおける JSPS 同窓会の活動については大変好意的にとらえていただき、今後の協力についても了承いただきました。

【左から副センター長、加藤調査役、センター長、竹内日本広報文化センター長】

■SUN/SixERS・AUN (ASEAN University Network) パートナーシップ協定締結式に出席 (4月22日) <http://jsps-th.org/?p=4728>

マヒドン大学サラヤキャンパスで、SUN/SixERS と AUN (ASEAN University Network)との間のパートナーシップ協定の締結式があり、山下センター長が招待され参加しました。新潟大、金沢大、千葉大、岡山大、長崎大、熊本大という旧制医科大学の流れをくむ国立6大学が連携コンソーシアム結成をしたのが3月のことで、岡山大学が幹事校となっています。

このような広域にまたがる複数の大学の連携協定は、国立大学では初めてのことです。その名称は日本語では、国立六大学国際連携機構、英語名は SUN/SixERS となります。日本の六大学の副学長、そして AUN 加盟大学のそれぞれ副学長も参加しての盛大な会合でした。

まずは生命科学(Life Science)分野での、教員・学生交流、単位互換、ダブルディグリーなどで、連携を深めていくとのことで、今後の進展についてバンコクオフィスとしても支援していく予定です。



■第 11 回 JSPS タイ同窓会理事会の開催（4月22日）

<http://jsps-th.org/?p=4693>

当センター会議室にて、タイ JSPS 同窓会 (JAAT: JSPS Alumni Association of Thailand) の第 11 回理事会が開催され、6 名の理事とセンター長を交えて議論を行いました。

今回は、センターの体制が変更となって以来、同窓会活動の活性化を図るために多くの議事を設け、理事会で議論いただきました。報告・議論内容は下記の通りです。1) 2013 年度ブリッジフェロー採択の報告、2) ブリッジフェロー選考基準、3) 2012 年度ブリッジフェロー報告会、4) JAAT の Thailand Research EXPO 実施、5) JAAT 会員募集、6) JAAT 規約、7) 中国同窓会総会へのタイ同窓会長の出席、8) 論博メダル授与式の実施時期、9) JAAT の監査について。

以上、これまで同窓会の具体的な活動、支援については、当センターからも自主的な運営を促しつつも、効率的な運営を行うための提言を今回は行いました。予定時間を大幅にオーバーしてしまいましたが理事会での議論も活発に行われました。(記念撮影を失念するほど議論が白熱しました)

■関西大学国際部山本課長の来訪（4月23日）

<http://jsps-th.org/?p=4741>

関西大学国際部国際研究・協カグループ山本圭一課長及び関西大学バンコクオフィスの現地職員が当センターを訪問されました。

昨年関西大学バンコクオフィスの田村教授が当センターを訪問されましたが、今回は山本課長がバンコクオフィスを訪問された際に、当センターにも訪問された次第です。当センターからは、JSPS の事業説明を実施して、意見交換を行いました。

関西大学のバンコクオフィスも開設され、タイ国内における大学の事務所が増えてきました。今後も、タイ内の大学における支援を実施していく所存です。



【左より JASSO 山本所長、関西大学山本課長、関西大学現地職員、センター長】

■国際大学(IUJ)の来訪（4月25日）

<http://jsps-th.org/?p=4746>



【左から Methasan さん、JASSO 山本所長、Aung 助教、Rajasekera 教授、副センター長】

国際大学(IUJ)の Jay R. Rajasekera 教授、Zaw Zaw Aung 助教、同校卒業生の Phensuda Methasan さんが当センターを訪問されました。

今回の訪問は、元々は日本学生支援機構(JASSO)山本所長との JASSO 主催の留学フェアの出展及びタイの学生の留学にかかる意見交換のためでしたが、JSPS も打ち合わせに参加し、JSPS 事業の紹介及び今後の連携について協議しました。

IUJ は、新潟県南魚沼市に本部を置き、大学院国際関係学研究科、国際経営学研究科を設置しています。学内の公用語は英語であり、真に国際的な環境が構築されています。ビジネススクールは英国エコノミスト誌で日本から唯一、世界第 79 位にランクされ、高評価を得ています。

IUJ は JSPS の事業で外国人研究者の招へいについて関心があるとのことで、事業について説明し、今後学内でも広報いただくよう依頼しました。

■タマサート大学東アジア研究所を訪問（4月30日）

<http://jsps-th.org/?p=4752>

今回の訪問はタマサート大学内にある青山学院大学タイ王国オフィス所長で福井大学客員教授を兼ねる栗野淳一教授から招待され、JASSO 山本所長、Nuttawan アドバイザー、また国際交流基金平林部長とともにタマサート大学東アジア研究所と福井大学産学官連携本部の部局間学術交流協定調印式に参加したものです。この日は福井大学より米沢晋産学官連携本部長と竹本拓治准教授が、またタマサート大学からは Somchai Chakhatrakan 副学長、Kitti Prasirtsuk 東アジア研究所長が出席しました。



式典では、Chakhatrakan 副学長の挨拶の後、Prasirtsuk 所長、米沢本部長によるそれぞれの機関の紹介がありました。調印が行われた後は、参加者全員の自己紹介及びインフォーマルディスカッションが行われ、当センターからも JSPS の事業を紹介しました。

■第二回タイ研究大学サミット（NRU SUMMIT II）を視察（5月8日）

<http://jsps-th.org/?p=4774>



バンコク市内で開催された第二回タイ研究大学サミットに資料提供を行い、本イベントを視察しました。

本イベントは、JICA タイ事務所より協力要請があり、JSPS 及び日本学生支援機構（JASSO）がポスターパネル及び資料を提供し、展示に参加したものです。タイ国内の研究大学が集結し、それぞれの大学の研究内容を展示するという企画であり、基本的には国内向けのイベントではありますが、当センターブースにラオス首相政策アドバイザーやカセサート大学教授、マヒドン大学教授の来訪もありました。

【ラオス首相アドバイザーと】

■豊橋技術科学大学角田副学長の来訪（5月15日）

<http://jsps-th.org/?p=4765>

豊橋技術科学大学角田範義副学長、穂積直裕教授、井佐原均教授が当センターを来訪され、副センター長が JASSO 山本所長と対応しました。

豊橋技術科学大学は、大学のグローバル化を図るべく、長岡技術科学大学及び高等専門学校機構と合同で連携して海外での実務訓練を実施することとなり、タイではタマサート大学や NSTDA との MOU の締結を目指しています。協定校を介して工学系学生を派遣し、現地での実習を行うとともに、現地の学生を日本でも受け入れ、日本の企業でインターンシップを実施する予定です。

学生交流の話題が中心とはなりましたが、当センターからも JSPS 事業についての説明を行い、学内の更なる周知について依頼しました。



【左から JASSO 山本所長、穂積教授、角田副学長、井佐原教授、副センター長】

■2013 年度第二回タイ国学術会議(NRCT)訪問 (5月20日)

<http://jsps-th.org/?p=4786>



今年度に入ってから2回目のNRCTへの訪問を実施しました。今回の訪問では、当センター現地職員の交代に伴う紹介、NRCTもSawaeng 課長の辞職に伴う後任の Tiwa 課長の紹介を行いました。また、6月6日に実施されたのガイダンスセッション、8月に実施する Thailand Research Expo の実質的な業務打ち合わせを実施しました。

【前列左から NRCT・Pimpun 部長、Tiwa 課長、Pawanee 職員、後列左から JSPS・Buabuchamanee 職員、センター長、Aunchalee 職員】

■京都大学バンコク連絡事務所片岡准教授の来訪 (5月21日)

<http://jsps-th.org/?p=4792>

京都大学バンコク連絡事務所の片岡樹准教授が当センターを来訪され、JASSO 山本所長とともに対応しました。

京都大学のバンコク連絡事務所は、1963年に開設され、京都大学東南アジア研究所や関連部局・機関の教員が交代で駐在し、現地の研究機関や研究者との交流拠点として活発な活動を行ってきました。

今回の訪問では、片岡准教授による就任のご挨拶をいただくとともに、当方からは JSPS の事業の説明を行いました。片岡准教授は大学の世界展開力強化事業や研究拠点形成事業などで JSPS の業務についてよくご存じでしたが、今一度大学での所属である大学院アジア・アフリカ地域研究研究科にて情報提供を依頼しました。片岡准教授の任期は8月10日までとなります。



【左から JASSO 山本所長、片岡准教授、センター長、副センター長】

■東京大学生産技術研究所竹内准教授(前センター長)の来訪 (5月21日)

<http://jsps-th.org/?p=4804>



【左からセンター長、竹内全センター長、Aunchalee 職員】

竹内渉東京大学生産技術研究所准教授(前センター長)が当センターを来訪されました。

今回はラオスでの調査に出かけられる際に当センターに立ち寄られたものです。これまで竹内前センター長は度々当センターを訪問されていたのですが、出張等でこれまでなかなか会える機会がなく、山下センター長の引き継ぎ時から初めての再会となりました。

現状、当センターは東南アジア諸国やバングラデシュを主たる活動範囲として広範囲での活動を行っていますが、この活動範囲にかかる礎を築いたのが竹内センター長でした。これまでの活動をさらに発展させ、推進していく所存です

■AUN/SEED-Net 事務局への訪問（5月21日）

<http://jsps-th.org/?p=4818>

アセアン工学系高等教育ネットワークプロジェクト（ANU/SEED-Net）は、アセアン10ヶ国における各国中核大学の教育・研究能力の向上、工学系人材の育成及び日本－アセアン各国のアカデミックネットワークを確立することを目的とした JICA（独立行政法人国際協力機構）のプロジェクトです。

今回の訪問では、副センター長が JASSO 山本所長とともに AUN/SEED-Net 事務局小西伸幸副チーフアドバイザーを訪問し、AUN/SEED-Net の業務内容について説明を受けるとともに、JSPS 及び JASSO の事業紹介、意見交換を実施しました。

AUN/SEED-Net の事業は実は JSPS の事業と重複している部分が多く、小西副チーフアドバイザーも、JSPS の事業に非常に興味を持って頂き、少しの時間だけ事業説明をする予定だったのが、時間が大幅に延長され、活発な意見交換が行われました。



【左から JASSO 山本所長、小西 AUN/SEED-Net 事務局副チーフアドバイザー、副センター長】

■明治大学中田国際連携部長の来訪（5月27日）

<http://jsps-th.org/?p=4809>



明治大学中田義三国際連携部長、齋藤正雄 ASEAN センター運営総括、ウィライラック・タン シリントンチャイ総務担当職員、及び白石勝己財団法人アジア学生文化協会理事が来訪し、当センター及び国際交流基金福田所長、平林部長、また JASSO 山本所長が対応しました。

明治大学は 2013 年 5 月に明治大学アセアンセンターを当センターから程近いシーナカリンウィロート大学に開設し、日本と東南アジア両地域の人材育成のハブとしての役割を担うこととなります。

【左から JF 平林部長、福田所長、JASSO 山本所長、白石理事、中田課長、ウィライラック職員、齋藤統括、副センター長】

■中央大学第一回グローバル中央シンポジウムに参加（5月28日）

<http://jsps-th.org/?p=4830>

明中央大学第一回グローバル中央シンポジウム「国際環境問題－タイを中心にして」に参加しました。本シンポジウムは、当センターが後援しています。

中央大学は、平成 24 年度グローバル人材育成推進事業に採択されており、「地球規模での諸問題に的確に対応できる多様なグローバル人材を育成すること」を目的としています

今回のシンポジウムでは、タイを中心とした環境問題をテーマとして、前半部分は「環境と経済」、後半部分は「環境と法」をテーマとして、中央大学の教員を中心としながら、現地の日本企業による事例報告、またチュラロンコン大学、タマサート大学から講師を招へいして講演が行われました。



■東京農工大学松永学長の来訪（5月30日）

<http://jsps-th.org/?p=4823>



活用し、良い相乗効果があるのではないかと、このコメントを頂きました。

東京農工大学松永是学長、西村直章理事・副学長（総務・財務担当）ら総勢 9 名の来訪があり、当センター及び JASSO 山本所長が対応しました。

東京農工大学は5月29日にキングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)との大学間学術交流協定を締結し、その後 30 日に在タイ日本大使館及び当センターを訪問されたものです。

当センターからは、センター業務及び JSPS の事業紹介を行いました。東京農工大学は、今後大学の世界展開力強化事業、グローバル人材育成事業への申請、採択を目指していくとのことです。また、学長からは JSPS と JASSO のオフィスを共用化したことで、学生と研究者の招へいを担当する機関が協力して対応出来ることは、それぞれの機関の長所を

■国際学術コンソーシアム(Academic Consortium: AC21)に参加(5月31日)

<http://jsps-th.org/?p=4837>

本イベントについては 2013 年 1 月 22 日に名古屋大学国際交流協力推進本部国際学術コンソーシアム(AC21)推進室プロジェクト・コーディネーターの井戸綾子講師、国際企画課の久田淳子掛長に当センターに訪問頂き、協力を要請されたものです。

国際学術コンソーシアム(Academic Consortium: AC21)は、2002 年 6 月 24 日に開催された名古屋大学国際フォーラムにおいて、世界の 24 主要大学・教育研究機関の学長および代表者が参加し、世界の教育・研究・産業組織により構成された国際的な学術ネットワーク構築を目的として設立されました。

AC21 国際スクーリングは、科学技術分野における最先端の学術研究について学ぶ機会を提供することによって大学院生の能力の育成、国際的な組織の一つとしてメンバー国、開催国その他周辺国の高等教育への貢献を目的としています。今回は開催地がタイということもあり、タイのメンバー大学であるチュラロンコン大学、カセサート大学、また事務局である名古屋大学が中心となって実施されました。



【チュラロンコン大学 Pirom Kamolratanakul 学長と】



チュラロンコン大学で行われた開会式では、チュラロンコン大学 Pirom Kamolratanakul 学長、カセサート大学 Michinari Hamaguchi 副学長、名古屋大学濱口道成学長が挨拶を行いました。また、この日の基調講演として、ノーベル化学賞受賞者である野依良治名古屋大学特別教授が講演を実施し、当センターからもセンター長と副センター長が開会式に出席しました。開会式の後、会場をカセサート大学に移し、4 日間の集中講義に加え、最後に参加した学生によるプレゼンテーションが実施されました。

【野依良治教授と】

■PIM で JSPS 事業説明会を実施（6月6日）

<http://jsps-th.org/?p=4854>

JSPS の事業説明会及びタイ同窓会による Bridge フェロー報告会をバンコク郊外の Panyapiwat Institute of Management (PIM) で開催しました。

今回のセミナーの目的は、1)JSPS の事業説明、2)タイ同窓会より Bridge Fellowship プログラムで日本を来訪した Dr. Porphant Ouyyanont による Bridge プログラムの報告の実施です。それに加えて、当センターのカウンターパートである NRCT(タイ学術会議)からの事業紹介、また、2011 年度に論文博士を取得された Dr. Sorasun Rungsiyanont を招へいして、論博プログラムの紹介及び経験について講演頂きました。



■広島大学国際センター平野主査の来訪（6月7日）

<http://jsps-th.org/?p=4881>



広島大学教育・国際室国際交流グループ(国際センター)平野裕次主査が当センターを訪問され、当センター及び JASSO 山本所長で対応しました。

平野主査は今回ミャンマーを訪問した後の訪問となりました。ミャンマー訪問目的は、1)広島大学とミャンマー林野省との学術交流協定(MOU)の締結に向けた協議、2)ヤンゴン歯科大学への訪問と広島大学歯学部との MOU 締結に向けた協議、3)広島大学ミャンマー校友会発足に向けた事前会合の実施とのことです。ミャンマーも当センターにおける今後の重要なターゲットとなるため、貴重な意見交換を行うことが出来ました。

■JST シンガポール事務所 矢野シニアプログラムコーディネーターの来訪（6月10日）

<http://jsps-th.org/?p=4900>

矢野氏からは、JST と JICA が共同実施している SATREPS (Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development, 地球規模課題対応国際科学技術協力)では、2008 年の開始以来、アジア地域では 10 か国 31 事業が展開されていること、今後の進展を考えると、例えば JSPS の二国間共同事業を、将来 SATREPS として大規模(資金的にも、参加国数においても)に展開するような視点で立案するとかのアイデアを提案されました。大学の世界展開力強化事業などは、ASEAN 諸国の複数の大学で実施されており、そのテーマも「地球規模課題」であり、将来は、SATREPS に転換することも考えられることから、今後バンコク事務所として、世界展開力事業参加大学への対応において考慮していきたいと思います。



■大分大学内田助教、九州大学大杉准教授の来訪（6月18日）

<http://jsps-th.org/?p=4908>



【左から JASSO 山本所長、Pha さん、内田助教、大杉准教授、甲斐さん、センター長】

大分大学内田智久助教、また大分大学大学院医学研究科博士課程に留学予定のチュロンコン大学の Pha さんが当センターに来訪されました。

内田助教は、JSPS 組織的若手研究者海外派遣事業で、タイに 2013 年 2 月まで長期で滞在されており、その間何度も当センターに訪問頂きました。

2013 年 2 月をもって終了した JSPS 組織的若手研究者海外派遣事業の成果について確認してみたところ、1)新しい共同研究が開始されたこと、また2)今回 Pha さんが大分大学への留学が決まったこと等、人的交流も深まったことから、一定の成果があったとのことでした。

内田助教との意見交換の後、九州大学の大杉准教授、九州大学システム情報科学府修士 1 年の甲斐さんと合流し、合同のランチ会となりました。

■ガジャマダ大学で JSPS 説明会を実施（6月19日）

<http://jsps-th.org/?p=4784>

今回のプログラムについては、ガジャマダ大学の学長補佐を務める Irfan D. Prijambada 教授からの招へいによって実現しました。ガジャマダ大学が JSPS 及び JICA 専門家でインドネシア国民教育省高等教育総局アドバイザーの和氣太司氏及び JICA 専門家の高間剛氏を招へいして、それぞれのプログラムと活動の紹介を実施したもので、Ir. Dwikorita Karnawati 国際交流担当副学長の呼びかけで各学部長を招へいし、教員・学生を合わせて合計 40 名の参加がありました。



【国際交流担当副学長 Ir. Dwikorita Karnawati 教授と】

JSPS バンコク研究連絡センターより山下センター長が JSPS の事業紹介、JICA 和氣アドバイザーから日本の高等教育協力、大学の世界展開力強化事業、SATREPS(地球規模課題対応国際科学技術協力)、AUN/SEED-net の紹介がありました。

インドネシアから日本への留学生数は 2012 年 5 月 1 日現在で 2,276 人で、タイを抜いて 7 位となっていますが、外国人特別研究員の受入れ人数は 2011 年度で 14 名のみであり、JSPS の事業について周知することによって、今後応募者が増える可能性が大いにあると考えられます。当センターとしても、インドネシア各地の大学で今後も事業説明会を継続的に実施する必要性について改めて認識しました。

6 月 20 日は、在インドネシア日本大使館南哲人一等書記官を訪問し、JSPS の事業の紹介を行いました。フィリピンでも紹介しましたが、博士号取得希望者に対する論文博士号取得支援事業、また、外国人特別研究員事業等の留学の先にある研究者支援について紹介し、JSPS 事業への今後の支援を依頼しました。

■泰日工業大学での留学説明会に参加（6月25日）

<http://jsps-th.org/?p=4992>

泰日工業大学での留学説明会に参加し、副センター長が JSPS の事業内容を説明しました。今回の留学説明会は、泰日工業大学が日本留学に興味のある学生に対して情報を提供する機会を設けるとのことで、日本学生支援機構（JASSO）タイ事務所へ参加の依頼があり、JASSO と JSPS の協力関係上から、JASSO が大学で留学説明会をする際に、当センターにも声がかかったものです。

今回の留学説明会では、JASSO、福井工業大学、東海大学、青山学院大学に加え、JSPS も事業の紹介を行いました。他の機関が全て留学の紹介をする中で、JSPS の説明は留学後、日本でポスドクをしたい、共同研究をしたい、また論文博士を取りたい、という留学の先を見据えたプログラムの説明となりました。



当センターとしては、大学院に留学後のオプションとして、JSPS のプログラムがあることを今回の参加者に覚えていただければと考えています。

また、泰日工業大学でも当センターの参加に際して、教員にもお声がけいただいた結果数名の教員の参加があり、論博事業や外国人特別研究員事業について、学長と教員から質問をいただきました。

今回の説明会は、学部生が中心ということで、今後直ちに需要は無いかもしれませんが、大学院に留学する学生や教員からの需要の掘り起こしには繋がると考えられます。このように、JASSO とオフィスを共有しつつも、こういった協力関係を継続していくことが重要と考えています。

■バングラデシュ首相顧問への表敬訪問（6月27日）

<http://jsps-th.org/?p=4553>

山下センター長のバングラデシュ出張の折、在バングラデシュ日本大使館南博之公使のご手配で、同国首相顧問（教育、社会開発及び政策担当）のアラウディン・アーメド博士（Prof. Dr. Alauddin Ahmed）への表敬訪問が実現しました。バングラデシュ JSPS 同窓会の Prof. Dr. Afzal Hossain 会長並びに Dr. Ahamed Khondaker 事務局長も同席しました。

同顧問は、日本の国費留学生の初期の経験者で、バングラデシュ日本留学生会（JUAAB）の代表も兼ねておられます。バングラデシュには36の国公立大学があるが、海外での留学、研究経験があつて帰国したのちそれらの大学に赴任しても、研究設備の貧しさのため十分な研究ができないこと、国としては、それらの研究者が等しく研究ができるハブとなる国立研究センターが必要と考えており、そのための協力を日本に期待したいと述べられました。

山下センター長からは、同窓会に対する政府としての支援、両国の研究者の共同研究の増加のために協力いただけるよう要請しました。12月に開催予定の同窓会主催の学術セミナー（JSPS が日本からの講師派遣並びに開催経費を補助している）への政府代表としての出席を了解頂きました。





国境線を越えて



歩いて国境を越えることは我々日本人の長らくの夢である。島国である日本は、国外に出ようと思ったら飛行機や船に乗らなければならない。この状況が日本という国を外敵から守り、独自の文化をもたらしたとと言える。いずれにせよ、ナウマンゾウが大陸から渡って来た氷河期にでも遡らない限り、我々が「歩いて」国境を越えることは出来ない。だからこそ我々は歩いて国境を越えることにロマンを感じるのだ。

タイとラオスの国境はメコン川とその支流によって遮られている。地元民は身分証明書があれば川を渡って両国を行き来出来るが、外国人は入国審査のある街まで行かなければならない。

今回僕はタイ側の Tha li 県にある国境を越えてラオス側の国境 Nam Heuang サイニャーブリー県に入る。タイ人とラオス人は入国料に 50 バーツかかるが、日本人はパスポートだけで OK だった。

メコン川の支流に架けられた橋を渡って国境を越えた。タクシン元首相が作ったとのこと。歩いて入国したかったが、往路はどうしてもソントウ（乗り合いバス）に乗らなければならないらしい。歩いて国境を越えるのは、帰り道のお楽しみだ。



国境を越えて 15 分、近くの村に到着してタラート（市場）で食事。クワイティアオ（タイ風ヌードル）だが麺だけはラオス風で美味だった。一杯 35 バーツ。そう、国境の街ではラオス・キップでは無く、完全にタイ・バーツが流通しているのだ。それ程タイとラオスの繋がりは強い。そしてまた、こんな田舎の街にもマンチェスター・ユナイテッドやバルセロナのサッカーシャツは売っている。グローバリゼーションは確実に進んでいる。

きっと、ここに住んでいる人は日本に行ったことは無いのだろうけど、それでも生活が貧しいとは思えない。車も携帯もある。携帯の電波はタイの会社のものまで入る。人々の幸福度は日本より余程上かも知れない。

ラオスとタイの国境はほとんどボーダレス化している。それだけ人の往来が有り、交流も進んでいる。そして今更ながらに「overseas」の意味に気づく。海を渡らなくても、別の国に行くことが此処では出来るのだ。この国に来て、日本には無い「国境」を実際に越えるとともに、その概念が既に薄れつつあることに、万感の想いを感じた。

ブアさんのタイご案内

タイの七夕について



7月7日はそう七夕でしたね。日本では星は見えましたか？ バンコクは不思議と雨季にもかかわらずここ何日も晴天が続いていますよ。ただし、タイでは七夕の習慣はもちろんありませんので、空を見上げることも無く七夕は終了してしまいましたが、心温まるショットを一枚！それはリトルジャパンことスクンビット・ソイ 33/1 のカスタード・ナカムラ前で発見した七夕祭りの短冊です。もの珍しいのか、通りすがりのタイ人やファラン(欧米)の人たちまですぐ横の parasol の下にある書き方例を見て短冊に願い事を書いています。そして恒例の記念撮影！基本的にタイ人は願い事が好きですね。それはタイ語で書かれていて、日本語に訳すと「早く日本が復興しますように！」と書かれた一枚です。どちらかといえば自己中心的な願い事を書くように思われるタイ人が、そんな内容の願い事を書くなんて何だか少し微笑ましい気持ちになりましたね。そんな七夕の出来事でした。

こんな素敵なお話がある事は是非子供たちにも話したいですね。そして参加する七夕祭りは素敵な思い出になります。短冊をかざりましょう。

ブア

※ブアさんのタイご案内は、バンコクセンター現地スタッフの Ms. Buabuchamanee Ritthaisong (通称ブア) さんによるものです。

JSPS バンコク研究連絡センター学術情報 (2013 年 4 月～6 月)

■2018 年 ASEAN 資格枠組み

Sasithara Pichaichannarong タイ教育審議委員会 (OEC) 委員長は、閣僚から教育省に対して運用するよう求められている国家資格認定枠組みについて下記のように述べた。

タイ教育審議会は国家資格の枠組みの策定及び運用に関するワークショップを実施し、企業主や会社経営者との意見交換を実施した。タイ教育審議会は高等教育及び職業訓練教育の発展のみならず、専門資格を詳述するために、本枠組みを開発している。ASEAN10 ヶ国及びオーストラリア、ニュージーランドが参加した会議がインドネシアで開催され、教育及び労働の基準として使用可能となる ASEAN レベルでの国家資格枠組みについて 2018 年までに正式にとりまとめることを合意した。本国家資格枠組みは、200-300 の職に対する資格能力を検査し、労働者の知識と能力を保証するものとなるだろう。

(4 月 4 日 Khom Chad Luek 紙)

■Times Higher Education 誌によるアジア大学ランキングでトップ 100 にタイから 3 校が選ばれる

4 月 10 日に発表された Times Higher Education 誌 (THE) によるアジア大学ランキングでキングモンクット工科大学トンブリ (KMUTT) が 55 位、マヒドン大学が 61 位、チュラロンコン大学が 82 位となった。

トップ3の大学は、首位から東京大学、シンガポール国立大学、香港大学となっている。

キングモンクット工科大学トンブリは研究の影響力が高く、また産学連携、知的財産移転が強みとなっている。

マヒドン大学は国際展開でベストスコアを出しており、海外に目を向けて国外からの学生のリクルートや国際的な共同研究に力を入れている。

チュラロンコン大学は、特に抜きん出た分野は無いが、全分野に渡って堅実なパフォーマンスを見せている。また、産業界からの収入は際立っている。

THE 編集者の Phil Baty 氏によると、アジアのランキングは全世界のランキングと同じ方法で実施されており、教育、研究、知財移転、国際展開力等の 13 項目について採点される。データはトムソン・ロイター社によって収集、分析され、検証される。

タイの大学がランキング上位に入るためには、全世界から優秀な人材を採用するための給与水準の確保、現地人材の雇用の促進、世界レベルの教育研究組織の構築のために官民からの強力な資金調達が必要である。

アジアトップ 100 大学はアジアの 25 カ国の代表的な研究機関から選ばれ、15 カ国の大学がランクインしている。

(4 月 11 日 Nation 紙)

■ASEAN 地域言語学習の重要性

アジア経済共同体(AEC)が発足する際に、コミュニケーションスキルを十分に備えておかなければタイ人は苦勞することになるだろうと専門家は警鐘している。10 カ国からなる東南アジア共同体が創設されようとしている現在、近隣諸国の言語を学習しなければ敗者になる。これは決して過言では無い。タイの学生及びその他一般の人々の外国語能力の強化、英語だけでなく周辺諸国の言語の習得が現在強く要請されている。もしそうしなければ、おそらく手遅れとなってしまうだろう。

「もし近隣諸国の人々と英語もしくはそれぞれの国の言語でコミュニケーションを取ることを学ばなければ、多くの投資機会を失うだろう。」とナレスワン大学の国際交流関係担当理事で言語センター長の Sudakarn Patamadilok 氏は述べる。ナレスワン大学言語センターは大学の学生及び教職員、その他一般の人々に対してラオス語、カンボジア語、ビルマ語、インドネシア語、タガログ語のコースを提供している。

Chandrakasem Rajabhat 大学の Nuntaga Thawut 国際交流担当副学長は下記のように述べる。「タイ人は現在タイ国内で労働、生活することに満足している。ゆえに、他の ASEAN 言語を習得することを必要だと考えていない。彼らは準備することを好まず、本当に影響を受けるまで近隣諸国の言語を学習することを緊急と考えないだろう。しかし、アジア経済共同体が発足してから近隣諸国言語を学習するのは遅すぎる。なぜなら言語は一朝一夕に習得できるものではなく、時間と継続的な学習を要する上、その頃には既に近隣諸国がタイ語を話せる状況となってしまうからである。Chandrakasem Rajabhat 大学では、カンボジア語、ビルマ語、ベトナム語の短期コースを学生及び一般に提供している。

Usanee Watanapan タイ初等教育委員会教育水準局次長は述べた。「大半の学生は各大学がビルマ語やベトナム語、カンボジア語やマレー語のコースを

提供しているにも関わらず、周辺諸国の言語を学習することが重要と考えていない。現在、異なる地域の 8 大学が夜間に近隣諸国の語学を提供している。」

「語学は非常に大きな力を持ち、各地域の言語を使用することでその国の人々に働きかけることが出来る。語学を学ぶことは良い影響を与えることが出来る」とナレスワン大学 Sudakarn 氏は述べた。

(4 月 22 日 Nation 紙)

■タイ国立大学教職員の給与を引き上げ

タイ政府は 5 月 7 日、タイ国立 79 大学の教職員 5 万人に対する給料引き上げのための約 110 億バーツの予算を承認した。

2012 年 1 月以前に就業した 54,801 名の大学教職員について、就業時からの給料の増額分を受け取ることになる。この事業は当初 3 年間で 117 億バーツに上る予定である。タイ国立 79 大学は、当初 2013 年度は各大学の予算を使い、政府が後に保障するとのことである。

タイ教育省は、政府職員と大学職員の給料の格差の問題を解消すべく内閣に提案していた。2012 年 1 月以降に就業した教職員は、政府の職員と同額の給与を得ている。

117 億バーツの内訳は、30 億バーツが 2012 年度、42 億バーツが 2013 年度、そして 4 億バーツが 2014 年度分に使用される予定である。

(5 月 8 日 Nation 紙)

■タイ国立研究大学サミットの実施

5 月 7 日、クイーンシリキット国際会議場で、2013 年国立研究大学サミットの開会式が実施された。Phongthep Thepkanjana タイ教育大臣は、本展示を行ったタイの国立研究大学について以下の通り述べている。

これらの大学の多くの研究成果は極めて優れており、社会に多くの利益をもたらすだろう。Yingluck Shinawatra タイ首相と及び閣僚は研究開発を大変重要視しており、タイ国民が研究開発の重要性を正しく理解すれば、国家のために多くの利益をもたらすだろう。また、将来研究開発のための予算の確保にも繋がるだろう。

現在、タイ政府は 70% の民間研究資金に対して、30% の公的資金を援助することを計画している。民間機関は研究成果から直接利益を産出し、投資した額以上の収入を上げることが可能である。ゆえに、民間機関が一層研究を実施しやすくすべきである。

Phongthep 教育大臣は、以下のように述べた。大学は民間企業・機関に対して、大学の専門的な研究分野を明示すべきであると述べた。たとえ単純なことであっても、社会に利益をもたらすとともに、研究者にも収入をもたらすことが可能となるからである。またタイ国民は、研究開発の重要性を理解すべきである。なぜなら、他の国々から模倣しているだけでは真の先進国にはなれないからである。タイは自国の特許をもって、世界に売り込むべきであり、政府としてもそれを望んでいる。

(5 月 10 日 タイ教育省)

■8万人ものタイ大学志願者が共通入学試験を通過

タイの大学の出願者は、共通入学試験システムで公式結果を確認することが出来るようになった。共通試験を通過した出願者は、自分で各大学に登録し、5 月 15 日～17 日に実施される面接に臨む。

タイ学長協会(AUPT)によれば、113,140 名の学生が共通入学試験に申し込み、83,995 名が通過した。

今年は、タマサート大学薬学部が最も競争率が高く、28 名の募集人員に対して 1,597 名の応募者があった。また、シーナカリンウィロート大学社会コミュニケーション創造学部 35 名の定員に、1,829 名の志願者があった。

最高得点者は 100 点満点中 94.29 点であり、チュラロンコン大学政治経済学部を選択した。

一方で、多くの大学はまだ志願者を受け付けており、AUPT は共通試験に失敗した学生の精神的サポートも行っている。

(5 月 10 日 Nation 紙)

■QS 教科別ランキングでタイ 7 大学がトップ 200 に

世界大学評価機関の Quacquarelli Symonds (QS) による 2013 年の教科別世界大学ランキングで、30 科目の中でタイの 7 大学がトップ 200 大学にランクインした。

これらの大学は、チュラロンコン大学、カセサート大学、マヒドン大学、タマサート大学、チェンマイ大学、キングモンクット工科大学トンブリ、プリンスオブソンクラ大学の 7 校である。

カセサート大学は、農業分野で世界 33 位にランクされた。これはタイの大学での最高位である。科目別では、チュラロンコン大学が 12 科目、マヒドン、タマサート、チェンマイ大学は 2 科目、またカセサート、キングモンクット、プリンスオブソンクラ大学は 1 科目のランクインとなった。

QS は教育関係者からの評価、企業の採用担当者からの評価、論文の被引用件数といった広範囲のデータセットを持っており、各教科について掘り下げることが出来る。これらの評価を組み合わせ、結果を出しているとのことである。

2011 年に立ち上げられてから、QS 教科別世界大学ランキングは教科別の総合的な指標となった。今回は 3 年目となるが、世界 2858 大学を評価して、678 大学が全部で 30 科目のトップ 200 大学に選ばれている。

(5 月 14 日 Nation 紙)

■科学分野の奨学生向けキャンプの実施

Phongthep Thepkanjana タイ教育大臣は、タイ科学奨学生キャンプを主催し、タイの官公庁での優秀な科学者の需要について講演を行った。

科学人材育成プロジェクト(タイ科学奨学金)は、タイ政府によって財政支援がなされており、タイ官公庁に勤務することを希望する博士課程の学生の創出を目的とする。奨学生は、23 のタイの公立大学の科学系学部で学ぶための財政支援を受ける。2008 年から 2013 年にかけて、1,600 名の博士号取得者が見込まれている。

Phongthep 大臣は、以下のように述べている。タイは科学知識をもって国を発展させてきた他の多くの発展途上国と同様に、多くの科学者を必要としていた。また科学を学習する学生は、科学初等から高等教育まで、しっかりとした基盤をもった知識を身につ

けており、1,600 名の科学奨学生は、学士から博士課程まで継続して修了するのに十分な知識を有している。

タイはこれまでイノベーションを創造することより先進国を見習うことの方が多かった。それでは、多くの所得をもたらすことはできない。科学者は新しい創造を始めると同時に、それを強く望まなければならない。いくつかのイノベーション、例えば医学は十分に進歩している一方で、その他についてはまだ発展の余地が残されている。新進気鋭の科学者は、タイを発展させ、向上させることが出来るだろう。

(5 月 21 日 タイ教育省)

■タイ教育省・ASEAN 共同体における未来の学校指導者の開発

6 月 25 日、バンコク市内で「Future School Leaders in the ASEAN Community」が実施された。本会議の目的は来たるべき ASEAN 共同体に向けて、学校教職員及び教育関係者のリーダーシップ及び能力の開発にあると述べた。

本会議は、チュラロンコン大学政治学部社会開発研究所が、香港教育研究所アジア太平洋リーダーシップ開発センター、宮城大学の協力の下実施されたものである。講義の内容は、リーダーシップの実践、自己能力開発、教育課程、知識の移転、留学及び人物交流等にかかる ASEAN 共同体国々の比較学習であり、共通部分、相違点を見つけること、また各地域の第一線で生徒の能力向上を目的とするものであった。

本会議で開式の挨拶を行った Siriporn Kitkeukul タイ教育省事務次官は、以下のように述べた。リーダーは以下 4 つの点を備えなければならない。即ち、1) 各コースの内容にかかる知識、2) 倫理、3) 教育の自由化にかかる知識の移転、4) ASEAN の開発にかかる知識とタイの教育への応用である。本会議には、公立私立合わせ 300 名の教職員の参加があった。

(6 月 25 日 タイ教育省)

日本学術振興会バンコク研究連絡センターの位置



日本学術振興会バンコク研究連絡センター/JSPS Bangkok Office

1016/1, 10th floor, Serm-mit Tower, 159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

tel +66-2-661-6533 fax +66-2-661-6535

Website: <http://jsps-th.org>

Email: jspsbkk@jsps-th.org